

第1回丹波市多文化共生推進懇話会 意見交換まとめ

【資料1】

意見交換について

丹波市多文化共生推進懇話会委員がそれぞれの立場で感じている様々な場面における外国人市民の困りごとや多文化共生社会をつくるために必要な取組などについて意見交換を行い、主に次の意見が出ました。

テーマ① 地域、学校、職場、その他公共施設など、様々な場面における外国人市民の現状についてどのような課題がありますか

【外国人の人権】

- ・偏見がある
- ・最低賃金が支払われない、日本人と同じ扱いをしてもらえない

【日本語のコミュニケーション・日常生活】

- ・日本語学習施設・学習支援者が不足している
- ・言語の違いから、病院や公共施設などでのコミュニケーションが難しく、サービスを受けられない。助けを求められない場合がある。
- ・文化、習慣の違いからトラブルがある
- ・親の通訳等で子どもに負担がかかっている
- ・災害等の緊急時の情報が理解できない
- ・日本語理解が十分でない単身高齢者や経済的困窮状態にある人の生活

【地域・人との交流】

- ・言葉の壁があり、地域社会への参画が難しい。また日本人との交流が難しい
- ・地域や人とつながりたいと思っているが、きっかけがない
- ・日本人側も文化などの違いを理解することが必要

テーマ② 多文化共生社会をつくるためにどのような取組が必要ですか

【外国人の人権】

- ・受入側の姿勢。差別や偏見につながる感情を取り除く教育
- ・外国人が働きやすい職場などの環境をつくる取組

【日本語のコミュニケーション・日常生活】

- ・日本語教室の充実、日本語学習教材購入時の助成など
- ・言語や文化などの違いに配慮した包括的な支援
- ・外国人の受入環境を整える取組
- ・外国人が安心して暮らすために相談窓口が必要

【地域・人との交流】

- ・自治会へより多くの方が参加できるように交流の場をつくる
- ・外国人、日本人、お互いがお互いに理解できるよう多文化共生意識を向上させる啓発活動
- ・多文化共生に携わる外国人の数を増やす取組

テーマ③ 丹波市がめざすべき多文化共生社会はどのようなものですか

- ・近所で支え合って生活できるまち

- ・日常生活を営む市民として普通に暮らせるまち

- ・丹波市に定住したいと思える社会、将来的に帰化もしたくなる社会

- ・様々な国籍や背景をもつ人が共生する社会

- ・日本人も外国人もお互いに相手を尊重できるまち

- ・相互理解が進み不安のない社会